

# ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.32 2012年9月26日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。プチ休暇先で緑に魅せられ、我が家はにわか植物ブーム。小さな鉢物ひとつでも、部屋に置くと心が安らぎます。猛暑に耐えた神学校の庭木を吹き抜ける涼風、門を開けながら仰ぐ高い青空の筋雲に、東京の短い秋を感じる日々。小さな自然を見つけ、育て、楽しむのが都会流なのかもしれませんね。古き良き讃美歌が新しい歌詞になり、季節を秋に読み替えたら、今の心境にぴったりでした。

「森の木々 草の野辺に 春の花匂う 主のかおり 主のまこと 何よりうるわし」

(教会福音讃美歌 33番 2節)

校長 関野祐二

## ● 組織神学に映画あり

昨年まで「鬼のいやし系」とあらぬウワサを立てられ、今年こそはとスタイルを変えた組織神学17名クラス。テキストをきちんと読むのは基本ですが、他の神学書を比較参照することに加え、教師から毎回のテーマに即した課題をひとつ出すことに。震災や臓器移植などホットな話題を神学的に読み解き、重要文献を(無理矢理)読ませ、批評してもらおうのですが、それだけでは週二回が辛いでしょうから、時折、章テーマに関連した映画DVDを配り、神学的メッセージを引き出してもらいました。どんな映画ですって? 「永遠の愛に生きて」「遠い夜明け」「エデンの東」「ブラザーサン・シスタームーン」「奇跡の丘」、大草原の小さな家ドラマもありましたっけ。それぞれ神学項目の何論で教材にしたか、当ててみてください。予想を超えた深い読み解きにこちらが舌を巻くことも。いやー、映画ってホントによいものですね(レポート教材でなければ?)。

## ● 公開講演会良し、特別講演会もまた良し

7月の佐藤彰師公開講演会は、外部からも多くのお客様を迎え好評でした(詳しくはニュース115で)。今年は9月に繰り上がった、恒例「献身者の集い・オープンキャンパス・公開授業」。聖書解釈学授業はクラス学生二人で心配しましたが、サクラや卒業生、お客様でほぼ満席。打ち合わせ無しの指名に学生を困らせつつも、聖書解釈の難しさ、おもしろさが伝わったでしょうか。歓迎昼食会で「激辛もまた妙に食べたくなる」と意味深なことを言われ、風味を変えまいと決意。そして午後は本校卒業生で元教師の中澤啓介師による講演会でした。東日本大震災をどのように考えたらよいのかとの重いテーマに、啓蒙思想家からも学びなさい、ヘブル書2章を人間の被造物管理権の回復と読みなさいとのサジェスチョン。「もう終わり?」と名残惜しいひとときでした。学校説明を終えて全プログラム完結、やれやれと食堂に行ったら、なんと中澤師を学生たちがぐるりと囲んで宴もたけなわ(講演続編)。ホンネのことは飛び交っています。ふと、在校生の輪の中に居続ける我がポリシーは、聖契神学校に受け継がれてきた伝統だったのだと直感しました。

## ● 新作「目は天に、足は地に」

7月下旬に親しい牧師から一本の電話。日本青年伝道会議（以下NSD）にブースと協賛広告を出しませんかとお誘いでした。準備スタッフもいないので、と齒切れの悪い返事で受話器を置いた後、思いは2009年プロテスタント宣教150年大会の、「どうしてブースを出さなかったんですか。みんなで手伝ったのに」と在校生から突き上げられた苦い経験へ。「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、神学校にとっては大きな飛躍だ」（8月25日に亡くなった、Apollo11のA船長を偲んで）と一発奮起し、翌日に出展の返事をして準備に取りかかりました。なにせ初めてなので過去の実績皆無、何をやってもいいということ。パネルを作ろう、のぼりを立てよう、オリジナルグッズ（クリアーホルダー）を作って配ろう、とアイデア爆発でとんとん拍子に進み、在校生の豊かな賜物も発揮されて、9月17日（月）～19日（水）のNSD当日を迎えました。個性豊かな諸々のブース群で異彩を放つ我が聖契（展示は派手でも配る物少々）。三人のスタッフ（Y先生と我が夫婦）とともに交替で立ってくれた在校生たち、お疲れさまでした。来てくださった方々の「いかにも聖契らしいですね」との感想は、善意に解釈しましょう。のぼり旗の「目は天に、足は地に」のコピーと望遠鏡を覗くシルエットは、手前味噌のようで実はデザインした在校生H兄の発案。ブースにはにぎやかに実物の望遠鏡も。個人の趣味が当人の手を離れ、昇華し、この時代にあって意味付けを与えられたような、くすぐったい気持ちになったのでした。おっとNSDそのものも、聖契在校生が分科会奉仕や証し&讃美をしたりして、大いに祝福されましたよ。出会った方々の中から共に学ぶ仲間が与えられたら最高ですね。

## ● 後期はのっけから

開校60周年を迎えた今年度は、おそらく聖契の歴史始まって以来の在校生出産ラッシュ（男性の場合はもちろん夫人が！）。この時点で5人、まだ続く勢いなので、お祝い金支出の費目はとうとう赤字でうれしい悲鳴です。9月の後期聴講生面接では3名が合格し、後期授業は10月8日、70名でスタートとなりました。今年度後期は諸々の事情で土曜日が休み。その分、週日が賑やかになるということですね。勉学の秋、さあこれからという第二週目なのですが、なんと申し訳ないことに、校長とY先生が所用で各々海外へ出ることになりました。その間、神学校管理は事務員たる我が妻の手に（カンロク十分なので心配なし。でも在校生の皆さん、祈って支えてくださいね）。昨年7月に三週間海外へ送り出し体重が減ったので、「それに較べりゃ」とうっかり口を滑らせたなら、「アナタ、海外は何度目？」との逆襲に遭いました。在校生たちに「補講もあるし、気を緩めずしっかり自習するように」と言っただけなのに、当人は彼方で旅行三昧ですから全く説得力なし。帰国したらパワーアップし（迷惑？）再開しますから、身勝手をお許しください。10月中旬からファミリーミニストーリーも隔週金曜午後が始まります。「劇（ドラマ）のある教会」という本を出版し（ちょっと宣伝）、パワー全開Su先生のセミナーにぜひご参加ください。そうこうしているうちに、もうクリスマスが訪れますね。昨年の残像が消えない学生会クリスマスの降誕劇は今年どうなるのか、M先生は友情出演で何をしでかすのか、楽しみのような怖いような。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 創立60周年を迎えた本校の、2012年度後期授業と在校生70名の学び、教職員15名の働きが、健康や霊性を含め守られるように。後期新規聴講生のためにも。
- ・ 病气療養中の卒業生、休学中の在校生がいやされ、働きや学びに復帰出来るように。